

特 46

特46-690

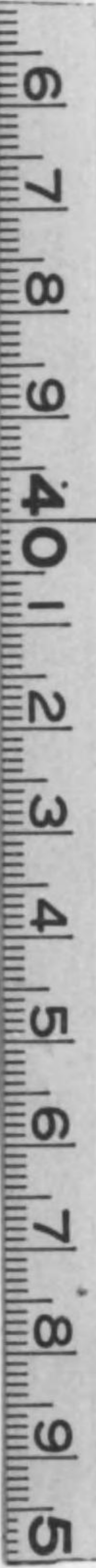


\*1200800204102\*

690

信用公録 6.

国立国会図書館



始



224  
105

立身致富  
信公用錄

第六編

東京

國鏡社

一信用は其人の據て以て世に立つ所の城壁なり基礎なり資本なり學者紳士の名譽聲望も之に由て揚り商工業家の發達繁榮も之に由て成り凡人世の事貴賤上下細大輕重を問はず其行動の根柢は皆信用の二字に由て行はるゝにあらざるものなし是泰西諸國に於て夙に交信所の設けある所以にして今我社の信用公録は多く其制に則り之を參酌して以て時の必要に應じたるものとす

一信用公録の主要は汎く世人の信用を表彰して其事業の發達進歩を助け社交の圓滿を期して其處世の便益活動を圖んとするに在り故に大人名家の立身記傳を掲て後進者起業の勇を鼓舞し後進者自家の閱歷希望を明にして先輩に親接するの津梁に資する等總て一般の信用を社會に紹介せるの勞を執り將た其機關に供せんとする者なり一信用公録に掲載する傳記は力めて美德功業を表彰し親睦恭敬の美風を養成せんことを期し一々實地の調査を遂げ檢閲を経たるものなれば毫も事實の杜撰訛謬なきを保す但其詳略繁簡文飾に至ては一に編者の取捨に存す

明治卅五年八月

◎信用公錄第六編目次

- 大隈重信先生 正二位伯爵
- 齋藤實君 海軍總務長官
- 高田愼藏君 貿易商
- 奧三郎兵衛君 豪商
- 久米民之助君 衆議院議員工學士
- 久米良作君 日本農道株式會社  
常務取締役
- 大橋新太郎君 衆議院議員博文館主
- 木村久米市君 東京建物株式會社  
專務取締役
- 星松三郎君 衆議院議員
- 伊藤幹一君 東京株式取引所理事
- 德田孝平君 東京株式取引所仲買人
- 金澤三右衛門君 紳商
- 田村利七君 東京紡績株式會社社長

一 三 四 〇 二 三 四 五 六 九 〇 〇 一 二

- 澁澤喜作君 北海道製麻株式會社
- 喜谷市郎右衛門君 實母散
- 堀親篤君 千代田銀行專務取締  
正四位子爵
- 中島錫胤君 貴族院議員男爵
- 安川繁成君 衆議院議員正四位
- 十文字信介君 十文字商會主
- 仁木傳吉君 商工銀行取締役
- 中井新右門君 中井銀行總務  
業務擔當員
- 田口和美君 東京帝國醫科大學教授  
醫學博士

二二 二四 二五 二七 二七 二九 三〇 三一 三二



特46  
690



衆議院議員工學士  
久米民之助君



日本鐵道常務取締役  
久米良作君



東京商業會議所議員  
徳田孝平君



紳商  
金澤三右衛門君



貴族院議員男爵  
中島錫胤君



前検査院部長衆議院議員  
安川繁成君



十文字商會主  
十文字新介君



衆議院議員  
星松三郎君



豪商  
高田慎藏君



衆議院議員博文館主  
大橋新太郎君



東京紡織會社長  
田村利七君



東京建物會社常務取締役  
木村久米市君



正二位伯爵前總理大臣  
大隈重信君



北海道製糖會社長  
荒澤喜作君



實母散本舖  
喜谷市郎右衛門君



東京株式取引所理事  
伊東幹一君

立身 致富 信用公錄 第六編

國鏡社 編纂

◎正一位伯爵大隈重信先生

先生カ我國ノ偉人明治ノ元勳ナルコトハ多辯ヲ要セス其開歷ノ如キモ既ニ人口ニ膾炙セリ敢テ之レヲ公録スルノ必要ヲ見サルナリ然レトモ世傳流説ノ内或ハ先生ノ眞面目ヲ誤リ一生ノ歴史ヲ傷クルカ如キモノニシテ國家ノ爲ニ一言セサルヘカオサルモノアリ依テ吾人ハ借越テ願ミス是ニ些カ陳述スル所アラント欲ス乃チ世人ハ先生ノ宏量達識常人ノ儔ニアラサルヲ知リ勳功偉大當代無比ノ人ナルヲ許スト雖モ時ニハ先生ヲ目スルニ尊皇ノ忠誠ニ乏シク日本ノ國體ヲ重セサルノ奸雄ナリト云フモノアリ實ニ先生ニ對シテ不敬ヲ極ムルノ甚シキモノニシテ此言ヲ聞知シテ漫然默視スルハ先輩大家ニ對スルノ禮ニアラサルナリ故ニ深ク其事實ヲ調査探究スルニ此妄評ハ全ク左ノ數原因ヨリ起リ且先生ニ對シ快カラサルモノ、之ヲ誇張附會シタルニ過キサルヲ發見セリ

一先生ハ政府ニ於テ久シク要衝ニ當ルト雖モ其功勳多クハ外交若クハ財政ニノミ止リテ内政教育等ノ事ニ至テハ甚ク寡少ナリ故ニ先生ヲ見テ以テ全ク權變滑達ノ大才ナリト誤認スルニ因ルナリ

二先生ノ部下ニ會スルモノハ小野梓朝吹英二牟田口元學矢野文雄前嶋密嶋田三郎等ノ洋學者特ニ英米ノ學風ニノミ薰陶セラレタル開國主義ノ名士ニシテ其論議スル處常ニ歐化改進ノ目的ニアリ之ニ附和スルモノハ多ク營利黃白ノ徒タリ山縣侯ノ部下ニ集ルモノハ品川彌次郎井上毅青木周藏桂太郎芳川顯正田中光顯等獨塊ノ學說ヲ鼓吹シ帝國主義ト武士ノ氣風ヲ養成スルヲ本領トシ之ニ雷同スルモノモ勤王家古武士ノ流ヲ酌ミ金錢ヲ土塊ノ如ク觀念スルモノ、ミナリシ故ニ明治十一年大久保利通侯薨去後ノ政府ハ藩閥ノ軋轢ト云ハンヨリハ寧ロ商人的ト武士的ノ衝突ニシテ上三條岩倉ヨリ伊藤井上西郷大山等諸氏ノ如キモ此兩主義ヲ調停シテ政務ヲ進捗セント力メタルノ觀アリシ而シテ大隈伯カ朝野處ヲ擇ハス一意ニ改進ノ方策ニ出テシモノ陰然一派ノ首領ヲ以テ目セラレ山縣侯カ獨逸兵制ヲ輸入セシニ於テ自ラ一派ノ長者ノ如クナリシ蓋シ伊藤侯カ頻リニ

臺閣ニ重キヲ致シ早ク總理大臣ノ重職ニ登リタルモノハ侯カ兩派ノ一ニ偏倚セス該博ノ學識巧妙ノ辯才ヲ以テ克ク之ヲ融會シタルノ結果ナラサランヤ  
三是ヨリ曩キ大隈伯ハ一味同志ノ人ヲ率ヒテ明治十四年ノ改革ヲ企テタルニ反對派ノ股ハ憤進躍起シテ之ニ反抗シ遂ニ彼ノ勤王家古武士ノ輩ト合同シテ大隈伯ヲ退ク其黨與ヲモ全然政府部内ヨリ排斥シタルカ如キ風評アリシ

加之此時大隈伯ノ改進黨カ英國制度ヲ模範政治トスルニ乘シテ大隈一派ハ英國流ノ共和帝政ヲ起シテ徳川時代ノ如クニ陛下ニ虛器ヲ擁セシメ奉ラント企ルモノナリト攻撃シタリ尤モ大隈伯部下ノ人モ亦自ラ鎌倉足利徳川等ノ變遷アルモノ 皇室長久ノ所以ナリト讃シ君主ニ政治上實權アレハ國亂止ム時ナカラント妖言スルモノスラアリシ之レ先生ノ知ラサル所ニシテ先生カ尊皇ノ忠誠ナシト疑ハルノ大原因トナレリ  
四明治二十一年先生ハ商人派ノ代表者トシテ再ヒ朝ニ立チ外務大臣ニ任シ彼ノ條約改正ヲ實行セントセラレタリ其議論ハ既ニ數年前井上伯カ實行ヲ企テ半途中止シタルト同輩ニ出ツルヲ以テ國權ヲ傷害スルト云フニ

スルモ亦難カラサル所トス現ニ本社同志ノ友ニ寺田彦太郎氏ト云ヘル耆老アリ敬神尊皇家ヲ以テ社會ノ推服スル處ナリ此人ハ居常先生ニ親接シテ胸臆ヲ知悉スルヲ明カニ現在ノ實例ヲ列舉シテ先生ノ敬神忠君ナル所以ヲ證明シ毫モ其間ニ疑ヲ置クコト能ハサラシムルモノアルヲ聞ケリ又大隈派ト山縣派トノ軋轢ニ於テハ大隈派ヨリ山縣派ハ頑迷隱險ナリト嘲罵シタルニ對シテ賣國不臣ノ名ヲ以テ報ヒタルニ止マリ兩者互ニ深怨舊構アルニハアラス共ニ 皇室ヲ尊重シ國家ノ隆盛ヲ冀フニ汲々タラサルナシト云ヘリ果シテ然ルナルヘカラス今ヤ將ニ兩派其鋒鋒ヲ収メテ自ラ融合近接セントスルノ傾向ヲ呈セリ以テ政爭ノ諛言ハ論ズルニ足ラサルヲ知ルヘシ  
是ニ於テ吾人ハ先生カ勤メテ尊皇敬神ノ事實ヲ公示セラレ先生カ設立セラル、早稻田大學其他ノ諸學校ニ於テモ愈々益々其主義ヲ發揚シテ國民誤謬ノ疑團ヲ消散セシメ以テ上 陛下ノ宸襟ヲ安シ奉リ國家百年ノ長計ヲ建テラレシコトヲ懇禱シテ止マサルナリ吾人叨リニ此說ヲ作ルモノ世傳流説ノ誤謬ヲ正シ私ニ國家ニ裨益ズル處アラシカ爲メノミ敢テ他意アルニアラサルナリ

於テ井上毅氏ボアフナート氏ヨリ反對ノ議論ヲ起シ次テ獨逸學生ヨリ李ノグナイスト氏埃ノスタイン氏ノ意見ヲ徵シテ之ヲ贊和シ三條淺野品川谷三浦島尾等ノ諸名家モ之ニ同シ遂ニハ民間各派ノ政治家ニマテ之ヲ波及シテ先生ノ成功ハ破壞セラレタリト傳フルモノアリ此後圖ラズモ日清戰爭アリ武人ノ奏功甚々偉大ナリシカ爲ニ武士的の代表者ノ勢力ハ頓ニ旺盛シタルコトヲモ忘ルヘカラスナルナリ  
五明治卅年伊藤侯ハ獨斷ヲ以テ先生ヲ内閣總理大臣ニ推薦スルヤ優勢ナル武斷派ノ人ハ大ニ之ヲ憤慨シテ伊藤侯ニ不臣賣國ノ汚名ヲ蒙ラシメ竊ニ大隈内閣ヲ破壞セント期シタリト聞ケリ偶々思慮淺キ尾崎行雄氏カ失言ノ爲メニ憲政黨内ニ風波ヲ起シ其原因ヲ以テ遂ニ内閣ヲ辭職セラレタリシ  
以上記載スルカ如キ歴史ト事情アルカ爲メ今日ニ至ルモ尙國民ノ一部ハ先生ヲ忠誠ナリト信認スル能ハサルノ嫌アリ況ンヤ局外ナル星亨氏一派ノ自由黨員熾ンニ之ヲ唱和シタルニ於テヤ  
然レトモ多クハ之レ黨爭利害上ノ造言ニ過キス決シテ信スルニ足ラサルノミナラス其反證ヲ舉ケテ之ヲ辯明

◎海軍總務長官齋藤實君

東奥は沃土千里由來傑出の士を出すの地なりし偶々維新政變に際し地方的感情より奥羽連衡西南の兵を破らんとして王帥に抗し爲めに敗退したれば朝敵の汚名を蒙り顔色なきに至りたり然れども至仁聖明なる 天皇陛下は國民を愛撫し給ふこと依估偏頗の御沙汰あることなく特に一旦方向を誤つて歸順したる東北を憐み給ふこと最も深厚ならせ給へり是に於て奥羽の人最も感奮する處あり振ふて朝恩に答へ奉らんとするの忠志を運ひ西南の軍征清の役皆武勇の名を顯せり又大に子弟を教養して國家の爲めに英才碩學を出さんことに熱衷したりし其功驗に於てや大學總長に山川健次郎氏あり經濟界に日下義雄氏あり政治家に原敬氏あり文官に後藤新平氏あり武官に齋藤實君ありて皆英明達識の名を博し第二維新の中堅を以て目せられたり  
實に君は陸中水澤の人幼にして膽略あり海軍出身の志を立て英學數學の兩科を修めて海軍兵學校を卒業し遠洋航海に實地を練習して海軍士官に擧られ幾回の戰役航海を経て本省の要職に補せられ海軍大佐に進み正五

位勳五等に叙し廿七八年の戦功を以て金鵄勳章を賜ひ功四級に叙せられたり

明治三十一年山縣内閣の組織せらるゝや同兵學校出身の先輩者たる山本權兵衛氏は海軍中將を以て海軍大臣に親任あり君は大佐の奏任官を以て海軍次官の顯職に拔擢せられたり從來の慣例を以て推すに海軍次官の顯職は殆んど少將以上の就任せし處にして藩閥あり學識あり海軍第一流と目して大佐時代既に權兵衛大臣の綽稱ありし山本氏の如きすら大佐の時は官房主事に留り少將に登りて後ち始めて海軍次官に勅任せられたる次第なりし然るに君は出身を問へば東北勳閥なきの地なり官歴を質すも未だ古參と云ふへからずして明治政府未曾有の特例を開きたりし之れ一に君の學識該博なるを吏才富豊なるを動績顯著なりしに據ると雖も山本大臣か人を見るの眼光巨大なるか爲めにあらざらんや果せるかな君就任してより既に五年治績愈々顯明に令聞愈々高く尋て海軍少將に陞任し勳位を進められ又官制の改革を以て海軍總務長官に移り現に其職を以て議會に政府委員の勤務を全し政務調査委員を拜して政府革新の爲めに執筆せらるゝと云ふ

世上無腸の青年輩猥りに云を休めよ藩閥縁故の人にあらざれば官海驥足を伸ぶるの處なしと聖明英武の今上陛下は一視同仁にましませり達識忠勇篤行堅志にして精勵あらんには皆悉く齋藤實君の如く然るなり立身出勢獨り齋藤君の專有にあらざるなり記して以て後進子弟の薄志弱行徒らに口舌を勞して實踐勤勉に怠るものを戒む

### ◎貿易商高田慎藏君

君は新潟縣佐渡相川の人舊幕府佐渡奉行支配地役人筆頭天野孫太郎氏の次男にして嘉永五年二月に誕生し夙に嚴父の下僚高田六郎兵衛氏に養子の約あり僅に五歳の齡を以て養家に移り養父六郎兵衛氏の舊習抑制的の育養を受くるも雖も實父天野氏は雪翁又は箕山と號し和漢の學殖あり頼又次郎後崎小竹宮原直等の諸名家と交遊し快濶明敏の人なりしに於て君は其遺傳を受けて活才宏量の良聞あり甫て年十二官の考試に及第し十四歳奉行所御用見習に出仕し斯年養父の没去に依り家名を相續し十五歳に至て奉行所公事方書役に任し二十歳三人扶持の世祿に加ふるに二人扶持壹兩貳歩の役料を給

與せられたり之れ現今の司法官試補に相當し漸次練達して裁判官に陞任するの端緒なり  
君此職に就てより漸く二年早く良吏の名を得たりと雖も時に維新變亂の戦報に接し奉行鈴木兵庫頭は江戸に出府し組頭中山修理と云へる人嶋廳吏員を會し徳川家の爲めに一矢を薩長の軍に酬ひんと企てたり此時君漸く十六歳に達するの若齡を以て親戚縁故の諫止をも肯んせず中山氏の部下に屬し爲す處あらんとせしも其期に先し新潟の權判事奥平謙助氏は官兵二中隊を引率して渡島し順逆を説て解兵を促し禮を厚うして中山氏以下君等を待遇したれば遂に其義に感し王師に歸順したりし

是時より權判事奥平謙助氏は佐渡の民政を統轄し順次舊地役人を採用するの方針を取り乃ち君の實父天野孫太郎氏は民政頭取に拔擢せられ君も亦相川鑛山の調役に登用せられたり尋て佐渡縣を置かれ夷港開市の命あるや君は開港場運上所下調役通辨見習に轉任し始めて英語を學習するの必要を生し佐渡縣雇通辨某に従ひて傳習を受けられたれども教師其人すら正當に英語を通譯するの學力なきものなれば門生たる君等の通辨は固より

其用をなさざりし

依て君と同僚某の二人は其事情を具陳して英語研究の爲めに東京に出張せんことを出願し再三懇請の後ち無手當研究許可の命を受けたれども君の決心は殆んど無錢旅行の辛苦も忍ぶべきの覺悟なりしに於て直に出京して當時柳原郡代屋敷の佐渡縣出張所に至り一小室を借り受け英語の練習を始めたなり  
尤も君は曩きに佐渡鑛山司に於て工部省御雇英人カーメル氏と約する處あり其紹介を以て「シャードンマジン」商會と獨乙名譽領事ベニア氏に面話し事情を述べ採用を依頼したれば「シャードンマジン」商會に於ても使用の意なきにあらざりしか君は遂にベニア氏の組合商店築地居留地四十一番館「アーレンス」商會に入社したり此時君は頑固なる帶刀結髮の田舎武士なりしも英學を研究したき熱心より即時脱刀斬髮の丁稚小僧と變裝したりとかや  
而して君の商社に入るや一點の利益心なく切々孜孜として業務に勤勉し蓬髮垢面顧る處なかりしかは店主の信愛を蒙り重用せられんとするありしも學術研究と云ふの點に至つては遂に其目的を達せざりし依て君は嘗



て佐渡奉行たりし鈴木重嶺氏が再び佐渡縣參事となるに際して商家の業務寸隙なく學術を講習する能はざる旨を陳陳したれば性來仁愛の心思深き鈴木氏は君に夷港繫船場税關調役を命し月給金六圓を與へ一ヶ年間東京滞在を許すの恩を施したり

此事は君の一身上忘るべからざるの大々の恩恵なりしも當時既に「アーレンス」商社中一個の良番頭たりしと生計上其命に應ずる能はずして一旦は之を辭したれども又退て靜に考れば學問を以て身を立て昔時の如く武士的生活をなすの希望もなきにあらず未憐にも工部權大亟今の子爵井上勝氏に知遇あるを幸ひ再び仕官を求め井上氏の盡力に據り二十五圓月給の官吏に就任するに至り大に喜んで之をベア氏に譲るにベア氏の爲に君は將來官吏たらんよりは商人となるの大成功あるに如かずと勸告せられ遂に一生を商業界に投ずるの決心をなして動かさりし

此頃よりして追々君の給料も増加し勉勵賞與も受くるに至り若干の貯蓄も出來たれば始めて築地鐵砲洲本漆町廿三番地に居宅を購入し結婚をなして日本橋區本材木町廿五番地に移轉し一度は火災に累り愛子を失ふの

を要するを以て大に苦心したり而して後ち英人ゼームス・スコット氏と協議し先主アーレンス氏に資金の支出を依頼し又ベア氏より同商社の營業取引貨主代理店等の契約證書カタローグ等を金三萬圓にて買受け君とスコット、アーレンス三名の合資商店を銀座三丁目十八番地に開き之に高田商會なる名を付したり之れ實に明治十四年一月にして現今の大商會たるに至るの根本なりし

是に於て君は高田商會を開業すると同時に倫敦に支店を設け政府用達商人たるべき資格を具備したれば大藏卿佐野常民氏に願ひ其の免許を得て必至勉強克く政府の利便を満足したるに於て深く政府の信用を蒙り相當の注文を受け漸く業務の端緒を開きたるも第一年は未だ幾千の損失を免れず第二年は損失なく第三年に至り始めて利益を生し最初ベア氏より購入したりし商業權の代金三萬圓をも完済したりし

爾來社會事業の發達と共に高田商會の營業も成績甚だ良好に向ひしを以て外國代理店を増加し大坂に内國支店をも設け愈よ勇進する處ありじに十八年組合員アーレンス氏の死去に遭ひたれば是非なく創立の契約に基

不幸ありしも産業は益々發達して漸く同町廿八番地に地所を購入し土藏造りの住宅を建築し東京府より不燃質の宏屋を建造し市街の火防に裨益ありとして褒狀を賜りたりし

但し當時は未だ維新戦亂の餘焰を絶たず武器彈藥等の買上も非常に多く同商社も利益を収めたるに組合員中アーレンス氏は引く商人間の營業取引をせんとするの意見ありベア氏は官廳用達の巨利あるを主張し遂に分離して更に「ベア」商社を築地「アーレンス」社の傍らに設けベア氏は店主となり君を登揚して利益分配の組合員の如く待遇したれば君の地位も進み益々幸福の境遇となり相當の資産を造出し故郷より實父母をも東京に來住せしめて其膝下に孝養を盡すに至れり然るに明治十三年政府は突如として官衙の用品は外國人より直接に購入すべからず海外に支店代理店を有する内國商人の手よりすべしと令達せられたるを以てベア氏は止むことを得ず同商社を廢し歸國することとなり君等は此時如何ともして此營業を繼續するの志願あれども海外に支店代理店を有するには少くも數萬圓の資産

き同氏の出資額及ベア氏へ支拂たる一萬圓を其遺族に還附してスコット氏と二人の組合に改めたり尋て明治廿一年君は歐米の取引者を歴問するの目的を以て先づ米國に至り大英合衆國に渡航し佛蘭西に進み獨乙に遊ひ尙其翌年催さるべき佛國大博覽會を觀覽するの希望を以て伯林府に滞在中本店より組合員スコット氏病死の電報あり勿々旅裝を調へ歸朝してスコット氏遺族にもアーレンス氏同様の贈與をなし始めて一己獨立の高田商會となるに至りたれども三人組合の商會か二人に減し再び一人獨立の營業となりたるに據つて資本運用上には一層の困難を加へ君も些る顧慮する處ありしか此時既に「オリエンタルバンク」に於ても君を信用するもの深く二三十萬圓位の貸越を承諾し外國取引商の信認日を追ふて増殖したれば遂に他人の加効助力を借らすして今日の成効を遂げたり

之れよりして君は曩きに在米の時調査して必要と見認したりし紐育支店を開設し米國との取引を擴張し大に利益を収めつゝ數年を経過せしに偶々明治廿七八年戰役の事あり固より貿易商の事なれば政府を利し自家に於ても得益ありしは勿論なれども深く内外人の注目す

る如く君か此機に乗し政府を欺き巨利を収めたり杯と云ふものは全く虚傳に過ぎざるなり君は元來愛國の觀念に深く政府の必要には自家の利害を顧みず海陸軍衛より賞詞を蒙りたることすらありし程なり其重要なものを舉れば君は嘗て倫敦府より購入したる海岸砲を海軍省に上納して不當の利得を貪らざりしこと及戰時豫備彈藥の原料硝酸曹達を締盟條約なき南亞米利加諸國より輸入して平常の定價を以て納付したる等なり其他以て類推すべきのみ

尋て明治廿九年同商會倫敦支店長獨逸人シヨール氏り病死したるに際會し君は再び米國を経て歐洲に到り露國「ペートスブルク」にまで遊歴せられたり此次に於て君か最も感覺せられたるは歐米諸洲の日進月歩の實勢と米國に於ける器械的實用の發達なりしと其談話の一節を記述するに實に左の如し

私か曩きに紐育市に來た時には八階の家か一番高かつたか今日は廿八階か出來て三十階も普請中で在つた之れは地價騰貴の影響許りてはなく器械學の進歩と電氣應用の實行せられしに依り「エレベートル」を以て高さ家にも平地同様の出入するとか出來るから

てあります又世界中の器械を運轉して尙餘りありと云ふ「ナイヤガラ」瀧の水力を以て起したる電氣は各家の暖房庖厨其他の細事に利用せられ又蓄音機を日用商店の應接信書の往復に代用するの有機あるには驚き入りました

又君は此歸路米國桑港を経て「シチ、フフ、ベケン」號を以て航海したるに途中暴風雨に遭遇し一旦は死を決すべ程の慘狀なりしも幸運なる君は無事に横濱港へ入港して益々業務繁盛を極むる處あるが君は佐渡の孤島に生れ其始めは僅に通譯修業の爲め上京して外國人の雇夫となり千圓の貯蓄を得れば故山に歸るの目的なりし而して其耐忍精勵は今日の豪富を致したりと云ふ誠に天運の人と云ふへし其事歴は前述する處の如しと雖も尙二三の逸話を加記し後進立身の龜鑑とすべきものあり

其一 御承知の通り佐渡は雪國で冬は朝晩寒氣か甚しいにも拘らず養父母は衣服を温めて私に着せた事もない何時にても冷たいのを着るのだから子供心にもシミ／＼辛ひと思ふたけれども夫か習慣となつて今日に至るまで只の一度も衣服を温めて着た事ありませぬ

其二 私か「アレンス」商社に勤めて居た時に西洋書籍の販賣を始めましたら始の内は捌方もよく直段も原價の數倍に登り大層の利益かありましたか段々殘本か出來る新版に壓されるに云ふ工合にて品物で儲つて資金か減すると云ふ次第ですから之を廢業した時一期位の利益にしかなりませぬ何ても商賣は永く續てやらねは損てあります

其三 私か「アレンス」商社に勤務中手當金の内から貯蓄した金子か少し出來た時に養母か國元で困難すると云ふて参りましたから五十圓を送り後には百五十圓を送り其上に鈴木參事から俸給として降された毎月六圓つゝの俸給も皆養母に送りて養育の恩に報ひました併し此時には金か千圓も溜つたら佐渡へ歸り安樂に暮さふと云ふ考へてありました

其四 人の一代には金か絶へず一圓位懐中にある時代と十圓ある時代と百圓ある時代の三期かあります一圓の時代か一番六ヶ敷くて十圓の時代か餘程樂てありそれから百圓になるのは造作のなひ事てあります

其五 私か始めて陸軍の方へ品物を納める時に手續か中々六ヶ敷くて思ふ様に買上げになりませぬから當時

派振の好かつた大和屋和介と云ふ人の店へ以て参りましたら却て役所よりは高價に買ふてくれました其六 私か廿七八年役の時誠實に上納をもちと云ふので砲兵本廠の提理さんは何んでも私の商會で買上るかち即時に直段書を出せと申されたれども私の方では倫敦の相場を開合した上てなければ決して直段書を出しませんてした商買は斯様に確實にせなければなりません

其七 私の外國店員には重に外國人を使用すると云ふて非難する人かありますか外國の店では何ふしても其土地の人物を使用せねは損てあります商買上其實例は澤山あるからてす

其八 日本は平生死後に於ける財産の處分方其他の事を書面に認め家内に渡して置ますから非常の變に遭つても決して狼狽する事かありません何人も左様にしたきものであります現に私か先年太平洋に於て難船に遭ひました時も遺言書か家内に渡してあるから其事ばかりは安心てありました

其九 日本は教育は餘り高尚にして三十にもならないと世の中の事業に就く事か出來ませぬ之れでは人間の

働く時間か甚だ短くなつて大事業を成就することか困難たるふと思ひます

其十 商買の駆引とは決して權謀術數を弄するものではなく取引の間に利益のある處を見出して手落なく之を儲けるのであります例之へは私か千五百噸積の勢徳丸と二千噸積の相川丸を購入して自分の貨物を運漕し又他人の運賃積をもして居りますか斯ふする時は私の貨物を他人の運賃積に頼みましても仲間荷といふて素人の荷物の様に高價の賃錢を取られませんか此等か則ち駆引といふ事でありませう

其十一 私の實父は一見識のある人物で永く佐渡にて獨立の世計を立て居ましたか老後手許へ引取りまして孝養を盡し養母にも其當時出来る丈の世話は盡しましたから之れはかりは遺憾ありません

其十二 人間と云ふものは志望さへあれば随分とんな事も出来るものと見へて私の實父杯は佐渡の一隅に生長して師友に乏しく少祿の小役人なれば資力も餘暇もなかつたのですか獨學工夫を凝らして學者とも云はれる程になりました私の兄弟は其詩文吟詠を編輯して六冊の書物となし嶺山遺稿と名つけて保存して居ります

か其中にも私を思ふて呉れた詩歌も随分あります其に

兒在東都一吾鴨湖 故山留婦辨塞厨  
一家三處相思淚 夜々天涯各地滿

### ◎奥三郎兵衛君

奥氏は江戸府開城以來數代連綿たる舊家にして三井と云ひ小野と云ふも皆奥氏の家格には及ばざりしもの之れ幕政時代の式法なり奥氏は本來泉州日根郡嘉祥寺村の豪農にして最も古き長者鏡にも第一位を占めたる奥三郎氏より分れ今より十數代以前の三郎兵衛氏は江戸の未だ荒蕪たる時早く將來の繁盛を卜して茅茨を拔除し土地を埋めて新地を開き大に市街地域を定めたり是れ今日の京橋日本橋の中間繁盛の地に當れり現に京橋區中橋に和泉町と稱する町名あり即ち奥氏埋立の新地にして大字三郎兵衛新田と稱し今尙同家の所有に屬するのみならず其近傍開拓に係る地許多ありと云ふ而して奥氏の家法は祖先以來商業を本とし開殖をも兼ねたるが故に江戸府に地を開きたる後干鰯問屋及び生魚問屋を營み房總沿海に漁鰯網を開始し大に肥料

の供給を謀り又幕府生鰯御用を勤めて十人衆たりしと云維新の際居所新場は生魚商の適地にあらずして漸次萎靡するを察し其業を廢し居所を深川に移し米穀問屋を創しめ干鰯問屋のみを兼業せり  
又奥氏は右の如き家憲なるを以て先代三郎兵衛氏も此道に志し北海道の開墾をなし北海道の肥料を移入し又清國に渡航して彼我交易の端を開き米國移民の業を鼓吹し尙進んで歐米各國の商況をも視察したり嘗て君を朝鮮に遣り各港市街を調査して米穀肥料を直輸入したることすらありし之を朝鮮米東京に到るの嚆矢とすなり

然るに先代は事業興隆の中道にして物故せられ特に着手の事業鮮少ならず資本の需用最も膨脹を極めたる時なりしかは君の煩累混雜は恰も重圍の内にあつて主顧を失ふたる謀將の如く困頓迷惑限りあることなく奥氏の資産も是に盡きなんかと云ふものあるに至れり君此難衝に立て資本を流通し事業を操縦し有利のものは之を繼續して益々盛大を計り成果の不可なるものは之を廢除して業務の繁雜を防ぎ家政を整理し冗費を削減して先人の後を辱しめざりし實に之れ明治三十年頃

の事なりき

爾來奥氏の財政は愈々整理し君の手腕を以てする業務は日々に熾盛するの良果に趣けりとかや蓋し君は元泉州日根郡中庄村平松九左衛門氏の男にして奥氏の宗家三十郎氏の養子となり東京に來りて當家即ち三郎兵衛氏の養子となりし人なり君前名を時之助と稱し先人三郎兵衛氏は詩及書に巧妙なりしを以て君も亦大坂の大儒妻鹿友樵氏の門に登り漢學を修得し稍や長するに及んで兵庫の山本彌兵衛氏の米穀肥料店に商業を實習し廿五歳より深川商店に在て先代を助け家業に従事したりし  
君は先人の世にある時既に東京商品取引所仲買委員長に推され木綿調帯合資會社の重役に撰舉せられ家督相續の後には三郎兵衛を襲名し建物株式會社監査役洲崎製網株式會社取締役東京廻米問屋組合行事事帝國海上保險會社相談役眞宗生命保險會社東京支店監督役深川電燈株式會社評議員等に撰舉せられし實業界の勇將なり先人は雅號蘭田と云ひ業餘詩書を樂となせしが君も亦雲樵と號し詩文を愛し高雅なる實業家の一人なり

◎衆議院議員工學士久米民之助君

君は東京府豊多摩郡代々木村三百五十二番地に居住すれども群馬縣上野沼田町の人文久元年八月の出生あり幼にして磊落不羈大志を懷き敷理の事に長ずる處あり郷黨隣里呼ぶに奇童を以てせり夙に東京に出て英學數學を研修し工部大學校に入學を請ひ其考試に及第して登雪多年明治十七年に至て土木工學を卒業し工學士の稱號を許され直に同大學の助教授を拜命したり之れ同校生徒中に於て最も名譽とする所なり

然れども君の志は斯の如き小成に安んずるものにあらず大に工業界に偉績を立て又巨萬の資産をも興さんとするにあれば皇居御造營事務局に出仕し歐洲を漫遊して専門學術の調査を全了し又支那朝鮮の内地を跋涉して鑛山の地性を視察し大に得る所あり歸朝後土木鑛山の業を開始したり

爰に於て君が英明なる天性に多年の學植經驗を以て之を琢磨せたる所あれば着手の事業悉く成功し忽にして數十萬圓の富有とありしのみならず工業者中老成大家の名を博し實業界中重要な地位を占むるに至りたり

◎日本鐵道株式會社常務取締役 久米良作君

日本鐵道株式會社は日本半國以上に線路を布設せる大會社にして資本數千萬圓の多きに及び我國第一等の大資本大信用を有する所なり故に其會社の重役なるものも皆濫澤會我富田等大實業家にあらざれば岩崎三井毛利島津等大富豪の代表者又は富豪者自らにあらざるはなきなり而して久米君は年齢僅に三十年の壯年を以て此故老先輩の間に立て一異彩を放ち會社の要衝に當り然かも最も信用あるの取締役なり豈に大才達識の人あらざるを得んや

吾人私に其閱歷を檢覈するに君は實に武州埼玉縣の豪農にして夙に才名あり幼にして地方小學校を卒業し東京に出て慶應義塾に學び又共立學校に研究して後ち東京法學院に入り良成績を以て同院英語法律科を卒業し

而して今日は澁町區内幸町一丁目四番地及赤坂區溜池町三番地に事務所を設け盛大に本業を實行せらるゝの外臺灣製氷會社社長に擧げられ其他會社銀行の重役各種工業の顧問を囑托せらるゝもの尠からず實に土木工業社會の泰斗なり

加之君は其令名あるか爲に政治社會よりも歡迎を受け群馬縣第一區より競争者なく衆議院議員に撰出せられ第十二議會以來政治法律の事に協賛して國家の爲に貢獻する所巨大なり就中君が議場に於て傲強卓立政黨政派の爲に牽制せられず自信を主張し寸毫も屈退する所なきは軟骨綿の如き同列の間に在て大に光彩を放てり而して其立論の學術的に實際的に全備せると雄辯滔滔満場を壓倒するの技術に於ては三百議員中其比を見るもの稀なり彼の第十五議會に於ける議院改築演説の如きは聞くものをして聳然自失知らず議場を逃出する迄のあらしめたり如何に君が辯論の巧妙なるかを徴するに足るへし

依て本年總選舉に於ても亦群馬縣より君を候補者に推薦せるに君は工業界多用の身を以て再び其撰に應じ夫多數を以て當撰したりし政界有識の士に缺乏せる今日高等文官司法官登備の資格をも有りたれども官途は君の望む所にあらず一旦郷里に歸り家事の傍らに於て田桑合資會社を設けて大に地方の製産力を振起し之れより實業界に指を染めて東京にも往來したりし

是に於て都下の紳士豪商と相徴逐して實業經濟に従事せしに其始め都人は地方素封の子弟を以て經視せしも事に當て敏活銳利なるに於て畏敬の念を起さるものなく先輩故老も擧て君を信賴するに至り明治三十一年漸く三十歳未滿の壯年を以て日本第一の大會社日本鐵道株式會社の重役に推薦せられ數年重選して今日に至りたれば遂に都下紳商の一人として動かすへからざるの地位に上れり

とする壯年有爲の明治實業家なり君か其將來に於けるの成功は果して如何吾人刮目して以て我國沈淪麻痺の經濟界を警醒革新するの偉績を見んと欲するなり君の任たる夫れ重なるかな

### ◎衆議院議員博文館主大橋新太郎君

君は新潟縣長岡市ノ人出版社會ノ巨擘前博文館主大橋佐平氏ノ長男幼ニシテ才名アリ東京ニ出テ、中村敬字先生ノ門ニ入り英漢ノ學ヲ修メ特ニ經濟學文學ヲ講習シテ業成リ文學的實業界ニ入テ爲ス所アラントセリ適々父君佐平氏ヘ郷里ニ政治家トシテ名望アリシモ空拳徒ラニ口舌ヲ勞スルハ國家ニ益ナキコトヲ感悟シ年五拾歳ニ至テ飄然商海ニ身ヲ入ル、ノ志ヲ決シテ東京ニ出版事業ヲ開キ君ニ據リテ漸ク大家文集ナル雜誌ヲ發行シ之ヲ發賣シタリ之レ實ニ明治二十年ノ前後ナリ之レヨリ君ヘ講學ノ餘暇ヲ利用シテ父君ノ業務ヲ助ケ或ハ編輯ニ或ハ商務ニ拮据經營シテ博文館ノ基本ヲ開キ業務稍々緒ニ就クヤ專ラ父君ノ傍ラニ侍シ一切ノ經理商案ヲ策シテ悉ク成功セサルナク數年ナラスシテ發行ノ書籍雜誌万ヲ以テ計フルニ至リ都下第一等ノ出版業

者ヲ以テ目セラル、ニ至リタリ抑モ維新以來時勢ノ變遷ニ乘シテ名ヲ成シ産ヲ興シタルノ人其數擧テ算フヘカラスト雖モ書籍ノ業ニ於テ大成功ヲ得タルノ人ハ僅ニ三人ナリ即チ著書ニ福澤翁アリ印刷ニ佐久間貞一氏アリ出版ニ就テハ獨リ大橋君ヲ推スヲ至當トセン蓋シ此成功ハ父君佐平氏カ英邁ノ資ニ原クト雖モ君カ文明ノ經濟的理想ヲ實用シテ之ヲ助成シタルニ據ラスンハアラサルナリ故ニ父君佐平氏モ早ク本業ヲ君ニ譲リテ博進社ヲ興シ博愛堂ヲ設ケテ第二ノ計畫ニノミ從事セラレタリシ是ニ於テ考フレハ博文館カ今日ノ盛況ニ達シ百萬ノ資産ヲ貯フルニ至リシモノ多クハ君ノ技術ナリト云フモ敢テ過實ニハアラサルヘシ而シテ君ヘ爾來其手腕ト財產ノ爲ニ實業界ノ信用ヲ博シ銀行會社等ノ重役ニ列シ公共業務ニ就テモ區會議員市會議員等ニ當撰シ東京商業會議所議員トシテ最モ盛名ヲナシ現今都下少壯成功者中ノ首班ニ登レリ本年衆議院議員改撰ノ期ニ當ルヤ本市中央首部ノ日本橋區撰舉民ヘ其主動トナツテ君ヲ候補者ニ推薦シ東京商工界ノ輿論モ亦君ニ信認票ヲ投票スルト聞キシニ本市第一多數ノ投票ヲ以テ當撰セリ其

代議士トシテ第十七議會ノ公壇ニ國家經濟興隆ノ大氣焰ヲ吐カル、ヤ豫シメ待ツヘキノミ  
本市撰舉民諸君ノ推薦當ヲ得タリト云フヘシ實ニ諸君ハ政黨ノ主義現政府ノ意見等ニ脚躡セス進ンテ君ヲ撰出シタルノ名譽ヲ荷ヘリ本社敢テ世ノ木鐸トナリ東京市民ノ公正ヲ天下ニ表白セントス

### ◎東京建物株式會社常務取締役

#### 木村久米市君

君は新潟縣高田町の人鉄工源平氏の男幼にして慧敏常人に超え郷黨呼ぶに大關久米の綽號を以てするが故に同地の豪商森氏其才幹を愛し養ふて大成せしむる所あらんとせり君勤勉大に主家の爲めに盡す所ありし然れども君私に思らく往昔柴田勝家か天下を壓するの勇武を以て空しく猿面冠者の一擊に倒敗したるもの要するに地位の宜しきを得ざるか爲のみ高田の一小市豊に雄を振ふの地ならんやと

驟然志を立て明治四年の頃僅に拾三歳を以て東京に出て艱難を経へ悲酸の苦を嘗むること殆んど十有五年明治十八年にして千葉縣某氏の紹介に據り法律家岡山兼

吉氏の知遇を蒙り法學を修めて其代言社務を統理し漸く地位を占むるに於て安房瀛船會社の整理委員に擧げらる偶々同社長小原謹一氏歿去せしを以て其社長の事務を執行し克く良成績を治めたり之れ君か實業界に入るの始めなり

爾來君は法律を特長として東京米商會社に入り肝煎小川爲次郎氏と共に「ブルース」組織實行の調査に従事し又商法實施の商業界に不利あるを鳴し延期運動に奔走して奏功ありし後ち頭取中村道太氏の蹉躓あり米倉氏の更て頭取となるや意見の君と合さるものあるに據り斷然退社して三箇商會なるものを設け地所家屋の賣買貸借に就て紹介の業を開き濫漫曖昧なる周旋屋社會の惡弊を一掃し傍ら貸家一覽所を設け貸家一目を發行して土地家屋の移動使用上一新機軸を出し最も正確に最も實實に紹介の業務に従事したれば君の人格と三箇商會の信用忽ちにして都人士の噴々すること、なれや君は此の機を察して三箇商會を資本金百萬圓の株式組織となし(嘗て本社事業の爲めに資助ありし)東京の安田善次郎氏武井守正氏中澤彦吉氏横濱の大谷嘉兵衛氏を中心として東京建物會社と改稱し君躬ら謙退して一

且支配人の地位に下り社務に従事したるも實際の業務は君の手腕を借りて操縦せざるべからざるを以て株主間の信託は早く君の一身に歸し遂に常務取締役營業局長に登り一切の社務に執掌し社業は日を逐て隆盛頻繁を致したりし

是に於て同會社は明治二十四年君を代表者として東京商業會議所議員に推薦し本市諸名家と共に商工業上議政の任に當らしめたるに果せるかな立論卓拔調査周密にして同議員中名聲赫々朝野の重望を荷ひて農商務大臣の囑托あり清國に渡航して商工業の調査を了し北清見聞録を編著して大に日清交通貿易の爲めに資益する所ありし又會社の爲に天津日本居留地に數十万坪の土地を占領し一帯の日本形家屋の新市街を見るの壯舉を遂成したり而して君は斯の如き成功あるのみならず愛知縣農前代議士永井松右衛門氏英國法學士日本郵船會社支配人永井久一郎氏臺灣總督府警察總長法學士大島久滿次氏の令妹にして淑徳高き律子夫人と結婚してより家庭を純潔にし品性を高尚にして世に一層の信用を増し紳士の上班に列するに至りたり君は文久三年八月の出生本年二十八歳の壯齡にして都下實業界の信

望は少壯成功家池田謙三境野大吉佐々木勇之助村井吉兵衛氏等と容量を同うし後來我國商工界の偉人たるに進むの資格ありと傳へり本社望む所は君か少壯進取の氣に馳せ徒らに前途多望の途上に障礙を來すなからんことを國家爲のに祈るなり

### ◎衆議院議員星松三郎君

君は商人出身の政治家にして經濟政策を以て其の特長とせり繁實の性質と經濟の丹練は市民の推重する所となり東京市芝區代議士として撰出せらるゝもの一回今や正に第十七議會府下の總撰舉に於て進歩黨東京市候補者撰定を受けしも亦承諾して益々國家大政の爲め盡す所あらんとせらるゝを聞けり

蓋し君か政治上今日の地歩を占めて人の尊重する所なりしものは偶然僥倖の結果にあらずして其價値の眞に存するを以てなり世人若し閱歷の概略を知るも克く日本首府東京市の代議士たるに恥ぢざるの大人物たることを承認するを得べきなり乃ち

君は宮城縣登末郡沼沼町有名なる吳服商島屋松次郎氏の第七子幼にして大志を懷抱し商業を以て身を立てん

ことを期して明治十五年東京市芝區伊皿子町に居を下りし府下各所に吳服店を開きて盛んに同商業を實行したりしか私に感ずらく我家は古來地方の豪富なるも未だ以て國を益し世を濟するに足らず我身徒らに碌々として父祖の餘瀝を嘗むるもの豈に丈夫の行ひならんやと慨然立て國家經營の大任に當らんことを欲し日本全國を周遊すること二回得る所あり其觀察録を出して上廟堂に献納し下弘く世に頒布し實業政治家を裨益したり是を以て政治家實業家は自ら君を信認し政治家の上班と推尊するに至りたり

是に於て君再び思らく我日本内地の民情經濟は漸く之を調査したりと雖も今や政治家たるに進むもの苟も文明諸國の政學に通し代議政体の實況を知悉して其任に當らざれば恐くは國家を誤らんと明治十九年奮つて歐洲に渡航し政法經濟の學を研究し傍ら代議政体運用の奥儀を極め同廿三年歸朝せられたりし

君歸朝するや恰も第一議會總撰舉の時なれば地方有志の爲に宮城縣第四區議員候補者に推撰せられ君止を得ずして之に應じたるも同地は政黨迷信と農民多數の地なるを以て商人出身の議員を戴くことを欲せず竟に君

を撰出すること能はざりし又明治廿五年の總選舉に於ても再び候補たることを諾したるも彼の有名なる地方官の選舉干涉の爲めに其目的を破られたりし

依て君は選舉者の智識大体に進步せる地方を擇ふにあらずれば其技術を試むる能はざることを考へ再び東京に出て、實業及政治の爲に貢獻し東京市民の爲に府會議員市會議員名譽職參事會員其他公共百般の事業を負擔したるに本市の選舉民は大に君を歓迎して明治三十年以來二回の總選舉に於ても君を代議士に選出し尙本年の總選舉に於て亦君を代議士に戴かんことせり

宜なるかな君は芝區内に居住すること今日に至るまで正に二十年同區會議員に在職するもの十有九年にして現に同議長なるのみならず市會議員に當選すること前後三回明治廿三年市政實施以來市會議員たると八年に達し嘗て市名譽職參事會員に列して郡市懇話會の橫暴を制し東京市政の紊亂を救ふて大に力ありし其他徴兵參事員水道常設委員芝區學校建築委員長芝區學務委員東京公園設計委員等の公職に推戴せられ實業界に於ても宮城商業銀行監査役品川電燈會社の取締役に在任し尙會社銀行等より相談役評議員等を囑托せらるゝもの

數多なり

加之君か明治九年二十一歳を以て世に立ちしより同州一年に至るの二十年間公共の爲と善行の爲に官の頭座を受くるもの擧て數ふへからず其拜受せし金銀木杯褒狀等既に七拾三四の多に達し其衆議院議員に當選するや再び歐米に漫遊して文明諸國の新空氣を呼吸し代議士たるの責任を最も實質に最も精勵に盡さるゝの名士なり

而して本社は本市選舉民か政黨の主義現政府の意向を問はず君の如き學識あり經驗ある老成篤實の議員を日本國首府の本市代議士に選出したるものは獨り東京のみならず日本全國の名譽なりと云ふを憚らざるなり

蓋し君は安政三年五月の出生本年四十六歳強仕の妙齡なれば以上記述するの外尙二三の逸事の附記すへきものあり記して以て君か如何に熱誠なる良政治家たるかを證明せんとす

一 其初め君か祖業を捨て、政治上の運動をなすや一家一門多くは之を反對せしのみならず政府の爲に選舉不法の難に遭ひ之を阻碍せられたれども萱堂の賢明を

以て君を激成せらるゝあり令閨の内助周到なりしを以て其志を成達せしめられたり

二 君は一身を以て政治上に委すると雖も國家富強の爲に心を用ふることも深く北海道に三百萬坪の大原野を開拓し國産を増殖せんか爲に拮据經營せられしこともありし

三 君か一家は宮城縣屈手の資産家なれば兄弟數人共力する時は優に長者議員の資格をも得へしと雖も君は飽まで平民的主義を以て衆議院に於て盡瘁する所あらんとするなり

四 君の政治上進退は初め改進黨に入り評議員に挙げられて主義の爲に斡旋せられたるも中途意見を異にする所あり分離して革新黨に加盟せしか後憲政黨に合併し舊自由派進歩派の分離に際して再び大隈伯と共に憲政本黨を組織し商工開發の主義を一貫始終せらるゝと云ふ

五 君の萱堂及令閨は曩に世を去られたりと雖も後婚の現夫人は片岡氏女子高等師範學校に於て高等文明的の教育を受け家道を理し良人の政務を助くるの傍ら第一高等女學校の教職に従ひて女學興隆の爲に献身的勤

勉せられ淑徳一世に高しと傳聞せり

### ◎東京株式取引所理事伊藤幹一君

君ハ東京株式取引所理事ニシテ同所事務ノ要衝ニ當リ在職拾餘年頭取肝煎理事長理事幾回ヲ變更スルモ君ハ獨リ動クコトナシ否動カスヘカラサルコト恰モ英國政府ノ「ベルマネントセクレタリー」ノ如シ故ニ頭取アリ理事長アリト雖モ業務ノ實際ハ殆ト君ニ據テ執行セラレル、モノ、如シ

君ハ同取引所書記長ヨリ身ヲ起シ支配人ニ進ミ常任肝煎理事ニ選舉セラレタル人ニシテ業務ノ規矩典例具サニ熟通シ特ニ歐米各國「ブルス」ノ起源沿革實況ニ關シテハ博ク之カ研究ヲ遂ケ我取引所ノ創始以降漸次改良ニ改良ヲ加ヘ今日ニ至ラシメタルハ君ク功勞與リテ力アリシト云フ世人カ君ヲ斯業界ノ老功者ト目スルモノ故ナキニアラサルナリ

而シテ君ノ出身ハ舊幕臣伊藤幸之助氏ノ長男トシテ弘化元年十一月江戸ノ本邸ニ誕生シ武士的教育ヲ受クルノ傍ラ儒學ヲ修メタレントモ維新ノ政變ニ遭遇シ少壯ノ血氣誤テ同藩脱走ノ群ニ入り常野兩國ノ山野ニ於テ官

軍ニ抵抗シ轉戦數回ヲ重ヌルモ遂ニ潰走スル所トナレリ是ニ於テ難ヲ舊采地ニ避ケ居ルコト三年明治四年初テ東京府出仕ニ擧ラレテ東京師範學校ノ職員ト爲リ又宮城師範學校ノ創設ニ任シ明治九年學習院設立ノ爲メ華族會館ニ招聘セラレテ主典ト爲リ本院ヲ設立シ諸般ノ整理ヲ了リタルハ明治十一年才也トス偶々君ハ想フ所アリ斷然教育界ヲ去リテ商業界ニ入り爾來幾多ノ實驗ヲ積ミ今日ノ地位ニ至リシナリ是ヲ以テ今日ニ於ケル君ハ取引所理事長代理者トシテ名聲アルノミナラス茨城無煙炭礦株式會社社長及ヒ日本メリヤス會社東京電車會社東京灣汽船會社二十七銀行北越石油會社等ノ重役ヲ兼攝シ東京商業會議所會員タリ加之ナラス君ハ公共ノ事ニ力ヲ致スコト深ク東京市會議員其他地方名譽ノ公職ニ推選セラレシコト枚舉ニ遑アラズ又公共ノ事業ニ私金ヲ義捐シテ官ノ賞詞ヲ蒙リタルモノ數多アリ

之ヨリ先キ株式取引所理事長大江卓氏其職ヲ去ルニ及ントテ君ヲ推スモノ少ナカラサリシカ君之ニ應セス爾來金子氏中野氏ヲ歴テ今日ニ至ルモ皆謙讓ヲ以テ之ヲ待チ從務茲ニ二十五年諄々トシテ取引所ノ業務ヲ改良シ

益々斯業ノ發達センコトニノミ執掌シ居レリト云フ

### ◎東京株式取引所仲買人徳田孝平君

君は勢州松坂の人徳田孝之進の長子なり嘉永元年六月六日を以て生る家世々酒造を業とす父の代に至り家名漸く郷黨に著る君其志を継ぎ幼より熱心其業務に従事す而して其醸造する所の酒類亦世に名聲あり既にして維新の革命に際し商勢漸く衰頽し遂に明治七年に至り松坂三井組に入り公債買入方に従事すること前後三年三井組を辭し且其家業を家人に托し初めて東京に出て日本橋區南茅場町に居をトし質商及び正米問屋を營業し傍ら公債株式の仲買を營む同十四年故あり専ら正米問屋を營業す既にして平岡華藏氏と謀り九段坂に白米業を開店し益々其業務を擴張せんとす偶々恐慌の爲め失敗し家財盡く蕩傾し窮迫最も極む乃ち正米問屋を閉ち僅かに洋服裁縫店を開きて一時を支ふ二十年再び東京株式取引所仲買に加入す爾來商運漸く回復するを得て今尙該業者中泰斗の世評あり是より先明治十四年日本橋區會議員に擧げられ十六年再び推撰せられたり幾干もなくして之を辭す明治廿四年東京商業會議所員に

選出せられ實業上の書策經營せし所少からず彼の株式賣買手數料徴收方法の改良論を主唱して遂に其不權衡を矯正したる如きは最も著大の事項なり又君は公共心に厚く救助寄附義捐或は幹旋の如きは資性の然らしむる所とす故に官府の褒詞賞杯を受けたる如きは枚擧し難き所尙君の商界に在るや常に投機を以てせず所謂信用誠實を以てすへきものなるを趣旨とす故に漸次其地歩と信用の地盤に固め今や同業者間に一頭角を現はしたるは蓋し故なきに非ざるなり

### ◎東京麥酒會社兼麴町銀行 取締役金澤三右衛門君

我國麥酒醸造者の鼻祖として府下銀行家の泰斗たる君は其出身を尋るに想はざりき幕府以來有名なる菓子御用達なりし蓋し君は菓子商としては決して聞ゆる所なきも麥酒醸造業の鼻祖としては世に崇尊せらるへきの大歴史を有せり即ち君か今日の富有上流の地位に登りしも皆麥酒業の爲に盡瘁せし結果なりと云ふ抑も君は弘化三年四月江戸府中本石町に生れ家世々菓子製造を業とし幕府各藩の菓子御用を勤めたりしを以

て君も亦其業を襲き菓子製造の事に熱心なりし

偶々英國人某氏と知音を結ひ各種商談の序外國酒「ビール」は早晚日本内地にも蔓延すへきを聞き頻に此業を起すの念慮を動かし早く明治初年に於て麴町區紀尾井町に麥酒醸造所を設け試験實用に至るまでは數多の資金と日子を費したるの末遂に「櫻田ビール」を商標として發賣したるも當初は販行思はしからざりしか漸次流行して其類に倣ふもの「エビスビール」「アサヒビール」「盛ビール」「札幌ビール」等の同業者勃興し頻りに競争を試みたるも「櫻田ビール」の名は全國に轟傳して其握冠たりし隨て其産額増嵩し莫大の利益を得られたり但し吾人は君か先見の明遠なるを敬服し世の麥酒業者か其餘徳の恩を謝せざるを何故なるやと疑ひ常に同業者の爲に惜みて止まざるなり

而して後ち君は此の事業を株式組織とし櫻田ビール會社となし君自ら其社長に任じ東京酒造組合頭取に擧げられ久しく營業を繼續せしも世の嗜好漸く淡薄なる獨乙ビールに傾きを察して醸造法革新の目的を起し之を東京麥酒株式會社に移し現に其取締役となり業務を統督せらるゝなり其他尙君は銀行事業に於て第八十四國

立銀行の取締役に推され東京農工銀行監査役に擧げられ又麴町銀行中央貯蓄銀行取締役を以て専ら其業務を統督せり又商業家の公職としては東京商工會員東京商業會議所議員に當選し市民の公職として明治十四年より今日迄は東京府會議員を勤績し市區會議員等にも擧せられたることあり徳望資産共に麴町區上乘の紳商なり否東京全市に於ても亦實業界中に信用藉甚なりとす

### ◎東京紡績株式會社長田村利七君

東京市神田區駿河臺北甲賀町に高壯なる邸宅を構へ四百有餘圓の所得納税をなし家風優美なる紳士田村君は果して何人なるかは其界限書生の舌頭に絶へざる常語なり何ぞ知らん田村君は決して素封の華族舊家にあらす其初め一介書生と異なるなき商家の徒弟なりしも堅忍不拔の氣力を存し正直勤勉の信用を博して今日に至りしなり汝書生輩妄りに他人の成功を羨望することなく自ら奮勵して其地位に登るへし高風美宅豊田村君の専有ならんや

田村君は東京の人純粹の江戸子にして三井家に仕へ利



發を以て主家の信認する所となり店務に勤勞ありしを以て益々重用を蒙り遂に長番頭の内に列し横濱三井銀行支店長に登用せられ久しく横濱に在て銀行事務に執掌したりしも自ら思へらく男子生れて人の雇使する所となり碌々終了すへけんや宜しく獨立起業以て身を立て産を興すへしと常に商機を察し時運に鑑み紡績事業の最も我國に必要なるを觀破し三井家を辭して東京紡績會社を創設したり是實に明治十九廿年の頃なりし爾來專心一意此事業の爲に盡瘁し幾多の辛酸を嘗め經驗を積みて社業を全成したるに時運到來紡績事業繁盛の時代となり同會社に莫大の利益を興へたるのみならず自家も亦數十萬圓の資産を貯蓄したり而して君は豫め事業に盛衰あることを考慮して他日の衰運に備ふるの策を立てたれば數年前來紡績事業の衰勢なりしにも拘らず獨り東京紡績會社のみは損害を受くること寡く田村君も亦資産を傷くることなかりし是を以て世の經濟不振實業家恐慌の眞最中に於ても君は依然高風を持し悠然寛厚の態度を失はざりしなり

後進子弟たるもの須らく君の閱歷に倣ふて以て身を立て産を興して生涯の清安を求むへし

但し東京紡績會社は資金七拾五萬圓全部拂込の大會社にして積立金七萬圓に達せんとし工場の設備職工の待遇等最も整齊せる良會社なりと云ふ同會社調査に就ては更らに觀覽の上記述する所あるへし

◎北海道製麻株式會社長澁澤喜作君

吾人文を草するも舞文構思の才なく徒らに文字を連ねて事實を明にするに過ぎず大方の嗤笑を免かれざる所なり獨り澁澤君の傳を記するに當ては奇想天外より來り文自ら妙に入るの感をなせり之れ君か一世の經歷自ら妙をなすに非らんや

君は埼玉縣商界の俊傑澁澤榮一氏と同村同宗の人夙に大義名分を唱道して討幕尊皇の旗を翻さんと企て、中途に破れ身を脱して京師に走り竊に四方同志の士と共に義舉を起さんとし幕府の嫌疑身に迫れり偶々一橋家の執事平岡圓四郎氏の周旋を以て其罪を免れ一橋公に謁して時務を奉り恩寵に浴して臣下に列し公の宗家に入るや從つて幕臣に列したり

て汝々として吏務に従事したりしか此時幕府及會桑諸藩は薩長諸藩の跋扈跳梁を憤つて戸羽伏見の間に衝突開戦し前將軍は朝敵の汚名を蒙りて江戸城に歸府せられたり爰に於て君か憤慨の志は勃々として禁する能はず遂に君側の奸惡を掃清するの名の下に兵を起し關東北の地に連戦して薩長諸藩の兵を苦しめたること其幾回なるを知らず當時鬼喜作の名兩軍の間に噴々たりしも交戦歳餘勝敗幾十回矢折れ糧竭きて旗を卷き悔悟朝廷に歸順したるに聖明なる

陛下は其志を憐れみ給ひて謹慎數年の後ち其罪を赦して朝官に徴さるゝも敗軍の將は兵を談せずと之を辭したりしか朝恩黙止し難く遂に勸業寮の高官に任し國家殖産の事務に執掌し大に養蠶製絲の業を奨励したり但し君の天性は積極進取の質に富み他人の事業を誘導扶掖するか如きに安すること能はず久しからずして挺身實業界に入り或は工業を起し或は商業に従事し内人と戦ひ外人を襲ひ交も勝敗すること恰かも維新の反亂に於ける狀の如くなりし其壯圖雄策内外人の共に驚嘆して商界の鬼將軍と呼ぶに至れり

然れども人世魔多く天地風雨を免かれず君の神變奇謀

も亦意の如くならざりしに於て横濱本町三丁目の澁澤生糸店及東京深川福神町澁澤米穀店を令息作太郎氏に譲り遂に高輪の山莊に隱栖して世と絶つに至れり其跡殆んど眞田幸村か胸に異圖を懷きて空しく高野山麓に隠れんとするに近く爾來杳として其聲を聞かず澁澤鬼將軍も敢果なく深山に隠れ畢ぬと注したりし

之より曩き北海道製麻會社なるものあり當路の役員其營業を誤り社務變遷して維持すへからざるに至りし爰に於て其大株主なる澁澤榮一氏は君の達才を迎へて之を整理に任せしめんとせり君其推薦を辭し難くして遂に同社長の印綬を帯ひ拮据經營數年の後ち舊態に一變し業務を擴張して最も隆盛なるの一會社となすに至りなり而して去年北清事變の報あるや政府は野戰テント用の麻布其價格五拾萬圓餘なるものを購入せらるゝことあり府下の用達商人各地の製麻業者も其大額の供給に應ずる能はざりしに君は奮然立て其軍用を便し歐米文明軍の間に我軍隊の整備武勇なる大名を博せしめたりき

之れ君か嘗て軍糧の事に實驗あると商略機敏なるの結果なれども世には他人の成功を羨怨するものあり故ら

に造言して會社を傷けんとするものあるに至りしも畢竟するに同會社の現況と遊澤君の手腕を知らざるもの、妄言たるに過ぎずして會社の眞想と君の敏腕は世の信認して疑はざる所なり而かも亦此間に於て君は東京商品取引所理事長たるの名を借したるに屬員中社金を費消したる者あり其煩累を君に及したることありしも豪志なる君は驚かず厭かず之れを處理して善後の方を策し其職を退き再び本職にのみ専任せらるゝことゝなせり

由來君の大智巨才を以て或は商品取引所或は製麻會社の如き小會社の業務に孜々たるは鶏を割くに牛刀を用ふるの誇りあれども君の志は難攻不落の名城に據るの眞田幸村も時利なくして破れ手掌大の赤坂に籠城せし楠公は遂に鎌倉の天下を覆没するの基を開きたり豈に事業の大小を以て他日の成功を卜すへけんやと云ふにあり其言の壯なる其行の快なる故偉人に耻ぢすと云ふへし

◎實母散本舖喜谷市郎右衛門君

草根木皮豈に藥功あらんやとは西洋流備醫の口吻なれ

代を更へ第八代目市郎右衛門氏に至るまで賣藥の販路と共に家道は日々に繁昌したるか天災或は事故の爲めに産業を失ふもの二回に及ひたるも皆幾くならずして恢復したりし而して君の第十一代目主人となるや賣藥を精良にし販路を擴張して支那朝鮮に及ほし今日の盛大となり天下無類の名聲を一世に博したり爰に於て世の奸商諸徒は相謀て同名僞藥を發賣して君の利を奪はんと企つるものありし君深く其奸商か世を欺き人の生命を誤るを憂へて外包全部喜谷實母散なる數字の登録商標を受け奸商等の謀計を水泡に歸せしめたり其奇智感嘆するに餘りありと云ふへし

加之君は其寛厚なる性に於て世の尊崇信賴する所となり同業者の爲めには推されて組合頭取となり區内人民の爲めには地租改正總代に撰はれて官府及町内の爲めに兩益の制を定め政府の褒賞を蒙れり尋て東京府會議員に當選し又商業會議所議員に就任して府政及商業界の爲に貢献する所多く又實業上に於ても君か超然世塵の外に立つか如きも猶第三銀行八十四銀行京橋銀行興業貯蓄銀行帝國ホテル東京建物東京製帽富士製紙茨城

どもキニーネは幾那皮の一成成分なりモルヒネは王漿殼の一成成分なりストロキニーネは馬錢子の一成成分なりオリチールは水揚皮の一成成分なり況んや賣藥實母散か草根木皮の粹を以て婦人の諸症就中鎮痙強壯の良劑として元祿以來世の難患を醫し痼疾を療したるを見聞するもの誰か備醫の妄言に欺かるゝものあらんや而して實母散はヘーステリ一産前産後男女引風の奇藥として世に珍重せられ其製劑發賣の熾盛なるもの都下第一流に居り本舖年々の収益する所驚くべきの巨額なりとす乃ち君は其本舖第十一代目の主人にして實母散第八世主壽寬翁市郎右衛門氏の第二子なり弘化四年十一月六日を以て江戸麹町平河町に生る幼名を立之助と稱し後喜文と改め長して箕裘を繼ぐに當り市郎右衛門を襲名せり其性慈仁寛大長者の風あり盆栽を愛玩し文墨の雅遊を好みて竹陰と號し大家名士の間に交遊する所廣しと云ふ蓋し喜谷家は其先近江の人藤兵衛氏江戸に來り現住所京橋區中橋大銀町に居をとし其猶子市郎右衛門氏の世に及んで傳家の靈藥實母散を賣藥として發賣せしに始れり之れ實に二百有餘年前元祿年中の事なりと爾來世

炭鑛深川倉庫會社等の取締役或は監査役に推薦せられ株主同益の爲めに盡瘁せらるゝ所許多なり但し君は資性老實情義に厚く文藝雅遊の逸樂あり又嚴父の遺傳を以て慈善公益の爲に資を投し身を役するを常とし厭ふ所なく嘗て海防費數千圓を献納して銀製黃綬章を受領し時に天顏に咫尺するの榮を拜し其學校を設立し道路を修築し細民を救恤したるに於て官の賞詞を受くるもの擧げて算ふへからずとや君の徳望一世に高く世の信賴特に深きもの夫れ是か爲あらんか

◎千代田銀行專務取締役 正四位子爵堀親篤君

抑も華族銀行の綽稱ある十五銀行と雖も今日は平民的重役を以て機關を運轉せる世の中に平民的千代田銀行は舊飯田藩主壹萬五千石堀君を以て專務取締役となし舊谷田部藩主壹萬六千三百九十九石細川興貫氏を頭取に舊吹上藩主壹万石有馬頼之氏舊西大平藩主一万石大岡越前守の末葉を以て有名なる大岡忠明氏舊佐貫藩主壹萬六千石阿部正敬氏を以て取締役となし全然華族公子の組織を以て平民銀行の機關を運轉する一異彩を出し

たるに不幸なるかな同銀行は前下半季の營業に於て三千五十八圓三十二錢六厘の損失を報告せざるへからざるに至れり

口さかなき京童は傳へて曰く殿様の御商賣は今も尙昔しの如きかと本社實業界の明鏡となり經濟界の木鐸を以て任ずるもの之を傍觀するに忍びんや直に細作を放て其真相を調査するに同銀行は明治三十年創設資本金二十萬圓内十萬圓拂込預り金七萬圓許質物流込三萬二千餘圓貸附金拾四萬七千圓許手形割引十三萬圓許にして相當の取引もあり營業上別に著名なる失敗もなし先づ以て良銀行の一に列すへき成績なりし

而して前季決算に於て利益を出さず損失を報告したるものは同行は從來平民的機關を以て行務を執掌せしめたるに兎角商略主義を以て外見を虚飾し内容に於ては不安固なるもの寡なからず前途憂ふべきものあるに於て之を貴族的機關に回取し同時に内部を整理し滞貸を處分し財産價格を割下け最も確實に最も正當に計算して其報告をなしたりしなり故に豊裕利益ありと報告せし平民的機關の銀行よりは三千餘圓の損失を報告せし此銀行こそ却て利益なること判明せり其證左は同銀行

か過去の九期に反し將來の二三期に於て必ず隆興するを以て見るへし蓋し本社か公然此證言をなすに憚らざるは前記の調査に據ると一には専務取締役堀君の技倆に於て信認する所あればなり

夫れ堀君は正四位子爵貴族院議員にも擧げられ同族中資産家の内に列し純粹なる貴族乃ち殿様なれとも多く世態人情を解通し共益主義の政見を有し細民を愛撫するの念厚く嘗て「質屋より米屋へ廻る寒さかな」の警句を以て都人を驚愕せしめたる程の英才なるのみならず淺草區長に擧げられたるとすらあり以て尋常の華族様に非ざると平民的機關を以て成績充分ならざりし千代田銀行を自家同族の手に收めて挽回擴張せんとするに於て祖先傳來の勇氣を遺傳保有せらるゝと知るへし特に君は人文の開發に心を用ゆること深く嘗て淺草區民の爲めに多額の學校費を義捐したることあり又東京繪入日報の爲めに數萬圓を出資したることありしと云ふ之れ本社か君の専務取締役なるを以て千代田銀行の將來を有望なりと云ふ所以あり

### ◎貴族院議員男爵中島錫胤君

君は舊徳島藩の儒官にして夙に勤王の志を懐き京師に出て各藩同志の士と訂交し常に皇室の式微を慨嘆して大政を復古するの議を鼓吹し子弟の士氣を養成するを以て任とせり彼の足利將軍數代の木像を三條河原に梟首して一世を警醒したるか如きも君の徒中より出つる

と傳ふるなり  
維新後徴士を以て始めて朝廷に仕へ刑法事務局權判事  
刑法官判事に任し兵庫縣知事中辨岩鼻縣知事七尾縣飾  
摩縣令を経て司法官に轉し權中判事より判事を以て長  
崎靜岡等の裁判所長に補せられ大審院判事に列し再び  
地方に出て長崎及び宮城兩控訴院の院長に補し尋て元  
老院議官に勅任せられたるも更に行政官に轉して山梨  
縣知事に任し久しく峽中に良二千石の名を専らにして  
退任し錦雞間祇候の待遇を賜ひ維新以來の勳功を以て  
男爵を授け特に華族に列し正三位勳二等に陞叙し明治  
卅年七月男爵の互撰を以て貴族院議員に當撰し現に議  
會に氣焰を吐露して三百議員中錚々の聞あり越て益々  
壯なりと云ふへし

又君は數年來實業家の推戴する所とありて天草炭業株式會社長東京新炭株式會社社長等の職業を兼掌して業餘の閑を消せりと然れども其本色に至りては實業貸殖の事にあらす一に忠君愛國を以て滿腔の目的となし生命富貴擧げて皇室の爲に犠牲にす誠に現下有數の元老と云はざるへからざるなり

### ◎衆議院議員正四位安川繁成君

君は學者的官吏出身にして常に公平剛志の名あり職權を以て時の内閣と抗爭し斷然終身官たる検査院部長の勅任官を辭し民間に入れり一世其舉を壯として東京府會議員市參事會員に迎へ東京府第一區衆議院議員に推薦せられたる名士なり今や又實業界に於て愛國生命保險會社の社長に就任し本年六十四歳の高齡なれども強健進取の英氣毫も壯年の人に譲らすと云ふ

吾人私に其閱歷を精覈するに實に君は天保十年三月に出生し上野國新田郡上田中村の郷士岩崎八十吉氏の四男にして始め文六郎と稱し年十六の時江戸に出て佐藤一齋翁の門に漢籍を修むること二年奥州白河藩士安川氏を繼ぎ文久の始年より成島柳北大島圭介氏等に従ふ

て圖書を學び開成所に入て稽古人世話心得句讀師に補せられ慶應三年英學に轉して福澤諭吉氏の慶應義塾に通學したりし

尋て明治維新の争亂あり此時奥羽の各藩連衡して王師に寇敵し君の舊主も亦之に黨與したり君深く之を憤慨して藩邸の重臣を説破し同藩の青年を糾合して二小隊を編成し奥羽に出征して勤王軍の魁となり舊藩主方向を誤るの罪を謝せんと欲し其意を官軍の參謀大村益次郎氏に致し大村氏之を容認すると雖も氣運熱せず君の旗下に會するもの僅に十六名遂に事ならずして止みたりき

然れども君か忠誠の熱心は斯の如き事故を以て沮喪すへきものにあらず更に藩邸所藏の銃器彈藥を朝廷に献納することを策して上野東叡山彰義隊の侍ひ所を失はしめ以て大に其氣勢を削きたり大村氏深く君の忠志と奇才を愛し引て幕下に置けり舊藩主も亦其功に據りて王師に抗するの罪を恩免せられたり

而して舊藩主は君の功勞を思ひ君を重用して明治二年二月に及びたりしに此時偶々藩籍奉還の議上國に起り君は封建制度の國害を鳴らし檄を奥羽の列藩に飛して

郡縣實施の必要を鼓吹したりし

此年君は多年勤王の志厚く國事に忠誠あるの功を賞して永代祿百石を増加せられ藩の重臣に列したり之より君の名聲は一藩内外に高く交遊する所も尠からず薩藩森有禮氏の如きも親友中の一人ありしかは其推薦を以て行政官制度寮に出仕し行政録事制度局御用掛權小史大主記を経て少議進に進み又明治四年十一月高崎少議官と共に歐米各國巡廻を命せられ翌年歸朝して其十月五等議官に進み同六年二月正七位に叙し同八年二月權少外史兼五等議官となり印刷局副長を兼ね第一回地方官會議書記官を命せられたり

爾來君は工部少丞同權大丞大書記官となり位階從五位に陞叙し明治十四年一等檢査官兼統計院幹事に移り檢査官に任せられ再び工部大書記官を兼任し勳五等に叙し双光旭日章を賜ひたるに君は突然官を辭し繁成山安川寺を開基して冷眼俗界を視んと期したり然れども政府は其識量を捨つるに忍びず同十九年十月更らに檢査官に任し奏任官一等に叙し同十二月正五位に進め同廿一年十二月勳三等に陞叙瑞寶章を賜ひ同廿二年檢査院部長に任し勳任官二等に叙し同年六月從四位に累進し

同年八月憲法發布參列紀念章を賜ひ同廿七年大婚二十五年祝典章を賜ひ尋て正四位に陞り公明なる檢査院部長の名を以て國家財政監督の重任を全ふせしに圖らすも担当事務に於て院長同僚と所見を異にし大に内閣の議を動かす所ありしか同三十年五月君先づ退官し次て院長渡邊昇氏退職し内閣も亦破れて更迭するに至りたり

蓋し天下の輿論は君を正義として大に同情を致し政治界重用の地位に迎へて其功勳を表旌する所ありし君又往年學道を以て一世を指導せんとする所あり當時の業績に左の著書あり今尙世に行れり實に學德勳勞共に全備するの偉人と云ふへし

地球略圖說 條約各國旗章政體概略  
英國新聞開明鑑 英國政治概論  
其他數種なり

之れ吾人か君の承諾を請ひ其記傳を公録し以て後進子弟の立身範鑑とする所以なり

◎十文字信介君

君は舊仙臺浦谷藩の人世々伊達家に仕へて名聲あり君

幼にして穎悟夙に富國の要道は殖産興業に因するものなるを唱道したりし時に維新の政變を來し彼の士大夫の常職を解かれたるも尙平民を輕蔑して切り捨て御免の舊夢未だ酣なるに於て一人の之を贊同するの勇あらんや然かも君は挺身劍を捨て、書を繕き刻苦精勵泰西文明の書志に因つて農藝の學を修得し傍ら農學者の泰斗津田仙氏と交訂し遂に學農社を創始し大に後進を教養して農藝上の智識を發展するに務め且農業雜誌を發行して國民の迷夢を打破せんことを欲し弱冠早く斯業の大家を以て目せられたり

爾來宮城縣に廣島縣に農學校長、勸業課長、市郡長等に歴仕し類に實業の振作と人道の隆起に盡瘁して名望益す隆々たるに至れり

明治二十三年帝國議會創設せらるゝや宮城縣民は閣縣一致の輿望を以て君を選出したり而して君か議場に顯はるゝや健剛の志氣明敏の口舌は卓勵風發となりて常に三百の頭顱を叱咤し今に其姿を想像するに足るものあり同廿四年第二議會の解散せらるゝに當り飄然去りて實業界に投せり之れを君か深意の存する所書て人に語て曰く

今の所謂政治家なるものを見るに多くは其主持なく廉耻なく常操なきもの、み予輩獨り濁流に激して議論侃議すと雖も黨争派來の爲めに遮られて遂に國利民福に資する所を有るべく又福て實業家なるものを見るも學なく識なく才なきもの、みにして徒らに形骸を文飾するを知りて實力の扶掖に力むるものなく國家の憂患之れより大なるはあらず是れ之れを匡正すること予輩自ら任せんすんはあらず

と何そ其見の毅拔にして其意の剛快なる更に君か經營發明したる事業を見るに  
 銃砲の製造、新式石油發動器、蒸氣ポンプ、重過燐、酸肥料、蒸製細末骨粉、消火器、消毒噴霧器、改良農具、

等にして其社會に資益あること世既に定評ありしもの特に君の發行する農事雜誌の如きは農事の改良と人道の開起に極力して又政治的趣味を混和するを以て君の平生の抱負何邊にあるを想見するに難からずとす又其著米國富豪傳の如きは起業立志の龜鑒として世多く其類を見ざる所君か盡瘁の多大なる誰か比肩するものあらんや

今や君齡五十前途更に傳ふるもあるべく予未た之を紀すること克はす他日再び君の成功を記述するの榮に居らんことを豫しめ期する所なり

◎商工銀行取締役仁木傳吉君

君か家は菊屋と稱し東京市麹町區麹町一丁目十番地に住居して古着兼洋服商を営し地方に於て著名なる老舗なり宜なる哉君は鋭敏利發なる商人にして營業所得税を合算すれば百圓以上を納入し本業の外有利なる會社銀行等の株主となり奇利を納むる者甚た多しと云ふ特に明治三十三年以來株式會社商工銀行を設立し其取締役に就任し行務を操縦して良成績あり新設銀行中に於ては信用厚きもの、一に居れり君の手腕實力の與て爰に至りしもの、一に居れり昨年下半季營業報告書を一覽するに果して左の如し

同銀行は資本金三拾萬圓拂込金未だ七萬五千圓に止れども諸預り金は拾二萬圓以上に登り前半季純益金四千四百餘圓を拂込資本金に配當すれば壹割二分の高利に達せり斯の如き創業日淺き時に於て斯の如き成績あるものは殆んど他に其類例を見ざる所なり

同銀行は君の外に取締役塚原元兵衛武内繁之助二見豊吉原増五郎立花春海五氏あり支配人は筋真一郎氏にして監査役は上村國三郎後藤春吉欽木安次郎氏なり利益豊裕なりと雖も行務の正確なることは監査役諸氏の人物を見て推知すへきなり

◎中井銀行總轄業務擔當員

中井新右門君

東京市日本橋區金吹町に永住し江戸傳來の名家にして明治の今日に至るまで動かさること磐石の如き資産家中井君は商號を播新と稱し各藩金御用達新川酒大問屋等を營業し都下地面持の長者として數代連綿家聲を墮さるるの舊家なり

當主新右門君は温厚思慮に富むの君子にして維新以來同輩諸名家か時勢に狂奔して虚榮を求め又新事業を經營して比々産を破り名聲を失ふに墜みて深く輕動妄舉を慎み新規起業をなさるのみならず在來の營業をも縮少して利害を察し得失を考へて明治十六年同家一門を相集め同銀行を設立して最も確實最も敏捷に營業をなし前後十八年間恂々として行務を擴張し成績最

も良好なる利益最も豊富なる第三十六回營業報告を頒布するに至れり

本社私に中井銀行の營業實際を調査するに主として中井家一門の資金運用を目的となし舊來縁由ある諸商店大家とは最も輕便に取引をなすと雖も暴利を貪つて新規不明の得意先を求むることなし故に貸付上に於て停滯缺損を蒙ること少きのみならず既に十八年間の經歷を以て行員は悉く事務に練達し顧客も自ら一定して變せざるものあれば營業の確實なるに於ては先づ東京市中第一位に居ると云ふへし

又銀行の資産は中井一門の合資金七拾萬圓を資本となし四十二萬圓の積立金あり三百萬圓の諸預金ありて資本金に對する純益は毎年一割五六分に登るも其大部分は之を積立金に繰入れ少額の配當金をのみ支拂ふの定法なり其確實にして世上の信用厚きと勿論なりとす加之ならず同銀行は家長新右門君のみならず一門中井鎌太郎氏中井永一氏と共に業務擔當員の責任を帯び業務に執掌せらるゝ所なるを以て本社は合名會社中井銀行は信用界中上乘の銀行なりと云ふを憚らざるなり而して家長新右門君は東京府多額納稅者の上位に列し

直接國税は貳千圓を過るとかや

◎東京帝國醫科大學教授  
醫學博士田口和美君

泰西醫術の我國民に信賴せられたる筋を檢査するに  
蘭書解體新書の翻譯と宇田川氏醫範提綱に據て始まれ  
り之れ漢法流の風を捕へ影を追ふか如き無稽の説にあ  
らずして實体的に之を證明したりしを以てのみ然かも  
泰西醫術は解剖學を以て基礎として講究したる爲に  
現下の進歩發達をなしたる所なり解剖學の斯學界に緊  
要なる事夫れ斯の如し  
然れども解剖學は皮肉を割き骨節を解きて精察分類す  
るに止り繁累強記を要して之に比すれば興味甚た少な  
きを以て古來此術を專攻するの人を生せず我國醫學上  
の一大缺點と呼做したりき偶々田口君は明治二年大學  
東校病院に於て英人ウヰリクス渡邊洪基桐原眞節等の  
諸氏に化學解剖生理の諸科を受業するに當て深く解剖  
學に傾意し大に得る所あり同三年始めて大學少句讀師  
に擧げられ大學出仕に叙し五等教授に拔擢せられ大學  
教授に任し從六位に叙し緊進して勲任教授に列し從四

位勳三等に陞叙したり而して君は其間三十餘年一日の  
倦怠あることなく専心解剖の學術に精強して斯道の完  
成を圖れり故に君は泰西醫人未發の筋肉骨性を剖拆分  
類して田口氏命名の下に斯學上新事例を創開したるも  
の數多あるも未だ以て足れりせず明治二十年歐洲に  
自費留學を懇請し獨逸諸大學に於て專攻の博士と學說  
を討論し次て歐洲を遊歴して我醫界の進歩を示し大に  
國光を發揚せらる  
誠に我國の解剖學は君あつて後ち成立し君の受業者中  
に博士小金井教授今田玉越助教授の如き名家を出し又  
有名なる肝臟護膜腫中微毒ヘチルレンを發見し其著書  
には解剖攬要組織攬要顯微鏡術攬要微毒觸接傳染病毒  
論同圖譜一冊等最も世に行れり  
蓋し我國の史傳を案するに宗教哲理の學に於ては古來  
大家を出したるもの乏しからずと雖も一生を科學的一  
學に委了して大名を成したるもの曩きに伊藤圭介翁一  
人ありしか今又田口博士の成功あるに追へり頃日斯學  
界の耆伯相議して君の學徳を紀念する爲めに肖像金牌  
及び金屬製の半身像を鑄造したりと學術界の慶事田口  
家の名譽と云ふへし

天下唯一の逸品

オールド



オールドは徳用無類の逸品なり  
オールドの評判第一の品なり  
オールドの風味溫和且甘味を感ずるは  
精製タバコ葉を配合して製造したる本場産なり

十本入小箱  
定價三圓四錢

此種國産は必ずしも過つておかし

◎東京帝國醫科大學教授

醫學博士田口和美君

泰西醫學の我國民に紹介せられたる醫學を檢査するに  
蘭西醫學の我國民に紹介せられたる醫學を檢査するに  
蘭西醫學の我國民に紹介せられたる醫學を檢査するに  
蘭西醫學の我國民に紹介せられたる醫學を檢査するに  
蘭西醫學の我國民に紹介せられたる醫學を檢査するに  
蘭西醫學の我國民に紹介せられたる醫學を檢査するに  
蘭西醫學の我國民に紹介せられたる醫學を檢査するに  
蘭西醫學の我國民に紹介せられたる醫學を檢査するに  
蘭西醫學の我國民に紹介せられたる醫學を檢査するに  
蘭西醫學の我國民に紹介せられたる醫學を檢査するに

然れども解剖學は肉を削ぎ骨節を解きて精察分類す  
るに非り繁雜強記を要して之に比すれば則ち其少な  
きを以て古來此術を學びし者を生ぜず我國醫學上  
の一大缺點と呼ばれたりし情々田口君は明治二年大學  
東校病院に於て英人ウヰリアム・ヒルソン氏に師事す  
諸氏は化學解剖生理の諸科を受業するに當り深く解剖  
學に傾意し大に得る所あり同年始めて大學少少講義師  
に擧げられ大學出仕に叙し五等教授に被擧せられ大學  
教授に任じ從六位に叙し擧進して勅任教授に列し從四

品逸の一唯下天



# ドルーオ



オールドハ徳用無類の巻煙草なり  
オールドハ評判第一の品なり  
オールドハ風味温和且甘味を帯び最も衛生に適任

オールドハ最良飛坊の巻煙草なり  
オールドハ北米合衆國バージニア及北カロライナ産の  
精撰す銘葉を配合して製造したる巻煙草なり

十本入小匣 定價僅金四錢

位階三等に叙せられたり而して君は其間三十餘年一日の  
恒長あることなく専心解剖の學術に精進して斯道の完  
成を願ひ故に君は泰西諸人未だの高尚骨性を剖拆分  
類して田口氏命名の下に斯學上新事柄を創開したるも  
の數多あるも未だ以て是れりどせず明治二十年歐洲に  
自費留學を懇請し獨逸諸大學に於て專攻の博士と學說  
を討論し次て同洲を遊歴して我國界の進歩を示し大に  
國光を發揚せらる  
誠に我國の解剖學は君あつて後ち成立し君の受業者中  
は博士小金井教授今田玉起助教の如き名家を出し又  
有名なる肝臟腫瘍中微毒ハチルレンを管見し其著書  
には解剖學要綱腫瘍學中微毒ハチルレンを管見し其著書  
論同種諸一冊等最々世に行れり  
蓋し我國の史徳を案するに宗教哲理の學に於ては古來  
大家を出したるもの乏しからずと雖も一生を科學的一  
學に委了して大名を成したるもの曩きに伊藤ハチルレン一  
人ありしか今又田口博士の成功あるに造へり田口斯學  
界の首領相識して君の學徳を紀念する爲めに背徳金牌  
及び金馬型の半身像を鑄造したりと學術界の慶事田口  
家の名譽と云ふべし

登録 喜谷

# 寶母散



本法五帖 金七錢  
三貼市袋 金五錢  
五貼一圓 金六錢  
拾貼二圓 金十錢  
拾六貼三圓 金十五錢  
拾六貼三圓 金十五錢  
五貼拾四錢 拾六貼六錢

喜谷寶母散は元禄年間創製以來最上の藥品を以て調製に精密の注意を用ゐるに因り稀代の特効あることは普く一般の寶験上に確知せらるる所に於て贅言を要せず其効能大畧

婦人さんぜんさんご血の道子宮病寸白月やくふゆん長血白血心悸胸痞  
浮腫盜汗四肢背腰の疼痛其他諸症殊に男子引風たんせき頭痛氣鬱  
腹痛等に用ゐる良効あり

官許本家

電話本局五拾五番

喜谷市郎右衛門



東京市京橋區中橋大鋸町

◎創立明治廿九年  
◎資本金壹百萬圓

京橋銀座  
三丁目角

東京支店  
(電話新橋六一六)



近世卷煙草  
界之泰斗

達摩卷煙草  
櫻世界

東京市神田區新石町

熊谷商會

電話本局五三七

廣告

取支同評支同取  
支店店縮  
議店監  
員長督役  
川崎村田宮若中  
飯田宮島中  
崎村田宮島中  
白宮中若橫飯川  
井部島宮田村崎  
遠久行正良  
平同孝音介郎郎

廣告

婦人科

文明靈術

下條醫院

赤坂區福吉町一番地

仁善義俠



# 社告

本誌ハ去月初旬發行ノ定期ナリシモ本年ノ總撰舉ニハ賛成員中多數ノ候補者アリ本市ノミニテモ當撰者數名アリシ程ナレハ社員舉テ撰舉事務助成ノ爲ニ出張シ隨テ諸事遅延ニ屬シテ漸ク本日ノ發行ニ及ヘリ

賛成者及讀者ニ對シテ分疏ノ言ナシト雖モ次號ヨリハ記事ヲ擴張シ體裁ヲ美麗ニシ以テ其罪ヲ謝セントス諸君幸ニ寛恕アラシムコトヲ請フ

## 國鏡社編輯部員拜記

毎月二回發行 定價一冊金五錢  
 但上製本ハ金貳拾錢  
 全壹ヶ年前金一圓本誌及懸賞品無料配達  
 但かゝみしんぶんハ賛成者及年極以上ノ諸君ニ  
 無料進呈ス

廣告料 二十四字詰一行 金五十錢  
 半頁三十行 金二十五圓  
 全 一頁六十行 金二十五圓  
 特別 金五十圓  
 公録料 一回 金三十圓以上  
 但賛成者ノ公録ハ無料トス

明治卅五年八月廿八日印刷  
 全 年八月卅一日發行

發行兼編輯人 浦上新吾

印刷人 廣井録之進

發行所 東京市牛込區市ヶ谷本村町三十五番地 國鏡社

印刷所 東京市麴町區三番町二十三番地 草木活版所

終